



11月には、各地区でブロック研究大会が開催されました。全公教四国ブロック長の吉田篤史先生に取材のご協力をいただき、教頭会通信「きずな」7号にまとめました。

第40回四国公立学校教頭会研究大会 香川大会（取材協力者：全公教四国ブロック長 吉田篤史先生）

【日時】 令和4年11月17日（木）、18日（金） 10:00～16:00

【会場】 レグザムホール（香川県県民ホール）大ホール、各会議場、e-とぴあ・かがわ、かがわ国際会議場、展示場

【内容】 1日目：11月17日（木）(1)開会式(2)分科会 6分科会（1A、1B、2～5分科会）

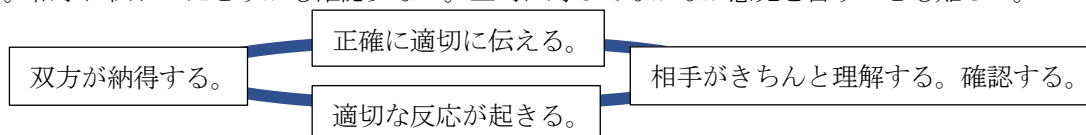
(3)特別分科会 演題「障害があるとはどういうことだろうか」講師：坂井聡 氏（香川大学教育学部教授）

2日目：11月18日（金）(1)全体会(2)記念講演 演題「伝わる力 ～人を動かすコミュニケーション術～」

講師：橋谷 能理子 氏（フリーキャスター、コミュニケーション講師・日本語教師、東京女子大学非常勤講師）

【研究大会の振り返り】（四国公立学校教頭会研究大会香川大会 佐光隆事務局長より）

- ・人によって話しやすい人と話しにくい人がいて醸し出す雰囲気が違う。リーダーの発信の仕方は人に大きな影響を与える。日本人は、一方的に話すことが多く、聞いた内容について意見を述べることがほとんどない。反応もあまりない。相手に伝わったのかも確認少ない。上司に対してなかなか意見を言うことも難しい。



- ・双方のコミュニケーションを高めるためには、真剣に説明し、相手が嫌がる言葉を使わず、褒める・フォローアップをする、人の表情をよく見る（観察する）ことが大切である。信頼関係を深めるためには傾聴が重要である。この人は自分の話を聴いてくれると相手を感じることで、相手の心理的安定を図り、自己有用感が高まり、ありのままの自分をさらけ出すことができる。人間関係の構築につながる。

【研究協議会】

6つの分科会で12の提言があり、特別分科会で講話・演習。提言内容は現在の課題に即したもので発表後下記の協議の視点でグループ協議。講話・演習では特別支援教育の視点を生かした教育の創造やインクルーシブ社会の実現と教頭の役割について協議。どのグループもテーマにそって協議している姿が印象的で、各地区で活躍する副校長・教頭が実践交流や情報交換をする中でお互いの共通点やちがいを語り合い今後の参考になるものを持ち帰ることができたと考えております。

<分科会 グループ協議の柱>

分科会	研究課題・提言テーマ・サブテーマ	協議の視点
第1A分科会	教育課程に関する課題 ・香川：道徳教育における教員の内発的動機づけを促す教頭の支援 ・愛媛：地域とともに子どもを育てる学校づくりの推進 教頭の役割ー地域に開かれた教育課程作りの為にー	・持続可能な取組になるための工夫 ・組織的・継続的な地域との連携・協働において教頭としてどのように関わるとよいか ・地域の伝統の継承と活性化について、教頭としてどのように取り組めばよいか
第1B分科会	教育課程に関する課題 ・香川：カリキュラム・マネジメントによる学校改善における教頭の役割ー学びの基盤となる「情報活用能力」育成と「外部資源活用」のための取組ー ・徳島：GIGA スクール構想を円滑に進めるための教頭の役割ーDX時代の新しい教育に向けてー	・デジタル・ティップ教育を、校種や学年の系統を見通して教科横断的に育むための取組について ・カリキュラムマネジメントの見直しのための取組について ・教職員の意識やスキルの差を埋めるためにどう関わっていくか ・「有事における遠隔授業・不登校対応につながる日常的なリモート学習の運用」を進めるために教頭としてどう取り組んでいくか

第2分科会	子供の発達に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・香川:不登校生徒に対する支援と不登校未然防止対策のための体制づくりー教員と専門スタッフ及び関係機関との連携を通してー ・徳島:子供たちの豊かな人間性を育む地域社会との連携・協働ーCSを核とした協働体制の構築と多面的な児童理解と支援についてー 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門スタッフや関係機関との連携に際して、勤務の日程や時間の調整、外部人材との渉外などを効果的に行うために、どのような工夫が考えられるか ・学校と地域社会との協働・連携を図る教頭として、コーディネートの方針について
第3分科会	教育環境整備に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・香川:公費と私費の適切な処理に対する教頭の取組ー効率的で合理的な構造と効果的な運用の視点でー ・高知:地域人材を活用した『チーム学校』の体制づくりーフォローアップを発揮した教頭のかかわりー 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学校会計の処理に向け、教職員や保護者に対して教頭としてどのような取組が必要か ・地域人材や専門機関の活用と組織体制づくり地域社会とのつながりと地域の教育力の向上
第4分科会	組織・運営に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・香川:楽しい学校・学級作りをめざす組織・運営の在り方と教頭の役割ー新しい人権課題への対応ー ・高知:様々な状況に対応できる危機管理体制の構築と教頭の役割ー地域とともに、地震・津波から生き抜くたくましい子どもを育む防災教育ー 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人権課題に対するリスクマネジメントとしての職員研修の有用性 ・学校内における様々な教職員組織のリーダーを育成していく工夫 ・地域連携と様々な状況に対応できる危機管理体制の強化を進める上での組織・運営に関する課題と課題解決の方策について ・防災教育運営での人材育成や組織力向上をすすめる上での課題と課題解決のための方策
第5分科会	教職員の専門性に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・香川:教職員の資質能力の向上をめざした取組と教頭の役割ーカフェ形式を活用した校内研修の活性化ー ・愛媛:泉川のよさを生かし、地域とともにある魅力ある学校づくりの推進ー地域とともにある学校づくりを推進する教頭の関与の在り方ー 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が自己研修意欲を高め、主体的に取り組み、参画意識を高めるような研修形態や方法を工夫し資質能力の向上を推進するための方法や教頭としてのかかわりについて ・組織的・継続的な地域との連携・協働において、教頭として自らの力量をどのように高めていくか。
特別分科会	副校長・教頭の職務に関する課題 演題「障害があるとはどういうことだろうか」 講師 香川大学教育学部特別支援教育領域教授 坂井 聡 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつのではなく「障害がある」という言葉の違いについて ・共生社会を創っていくうえで、どのようなかかわりができるのか

大会後のアンケート結果は、全体会（記念講演会）の満足度は、大変よい83.8%、よい16.2%、分科会（研究協議会）の満足度は、大変よい53.5%、よい46.1%、と大会全体を通して充実した内容であった。

参加した副校長・教頭にとっても、大変有意義な大会であったのではないかと捉えています。

【大会に参加しての感想等】

参集とオンライン配信の「ハイブリッド大会」として実施した。分科会は参集していただいた方からは好評を得たが、オンラインで参加した方には配信のみとなり実施方法に課題を残した。特別分科会での講演、記念講演ともに好評をいただき、大会全体としては有益なものとなった。

・様々な学校の事例を聞くことで同じような課題を抱えており各学校の実践をうかがえたことで取り組みの参考にできると感じた。よい事例を参考に取組めるところから自校での実践にいかしたい。(分科会：参集)

・ライブ配信では、小集団の話し合いに参加することができない。また、香川県以外の発表が聞けなかった。仕方がないところはあるが、残念だった。(分科会：オンライン)

・香川大学の坂井先生のお話はとても参考になりました。障害があるのは環境面にあるのだという考えを忘れず、どのように支援するのかを考え共生社会を学校の中に作っていききたい。ありがとうございました。(特別分科会)

・(橋谷能理子氏の講演は)業務に直結する内容で分かりやすく、大変よかった。話し方自体がプロであり、見本をみせていただいた思いがある。

日頃、信頼を得るために人とのやり取りは欠かせない。ご講演いただいた内容から、すぐにできることもあると感じた。早速いかしていこうと思う。ありがたい時間になった。(記念講演)

・小グループの協議の時間は、何らかの形で参加できる場があればよいと思った。タイムマネジメントがしっかりできていただけない、初日は少し消化不良な気がした。ただ、コロナ下で参集も実現した大会運営は、大変意義深いと考えます。お疲れさまでした。(大会運営)